

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：エルドアン首相のドイツ訪問

(2月4日付現地紙)

トルコとドイツ二国間関係強化のため、トルコのエルドアン首相は2月4日ドイツを訪問し、ドイツのメルケル首相と首脳会談を行った。同会談ではトルコのEU加盟問題、シリア内戦等について意見交換が行われた。

会談終了後の共同記者会見において、メルケル首相はトルコとEU双方の交渉が進展し、新たなチャプターでの話し合いが始められるようサポートを続けていると述べた。しかしながら、トルコがEUへの加盟を本当に望むのであれば、やらなければならない問題は多いと指摘、トルコの加盟についてはこれまでと同様に慎重な姿勢を崩さなかった。

メルケル首相は、トルコとEU間での加盟交渉は段階的に進められているが、EU加盟を望む全ての国は国内で直面している問題を先ず解決する必要があると述べた。特に2013年5月末から発生した反政府デモと、2013年12月17日に明るみに出た閣僚を巻き込んだ汚職事件の二つの事案について言及し、トルコが後退しない事を望むと述べた。

また、メルケル首相はドイツに居住するトルコ人が自国の選挙に投票できるようドイツも支援することを約束した。現在ドイツには約300万人のトルコ人が居住していると言われており、そのうち約半数はドイツ国籍または市民権を取得している。エルドアン首相は、別名「トルコ人街」とも言われる、ベルリンのクロイツベルク地区で5,000人の支持者を前に演説を行い「トルコは経済成長を遂げ政治的にも安定した」と述べ、自身の政治手腕を強くアピールした。

トルコでは2012年に選挙法改正を行い、在外トルコ人も投票が出来るようになった。3月に行われる地方選挙は、この法改正後初の選挙となる。

強権的な政治運営が目立ちはじめ、トルコ国内での支持率が低下傾向にあるエルドアン首相は、海外居住者の票を取り込むことで自身の基盤強化を図ろうとしている。法改正後、初の選挙となるため、その影響力は未知数ではあるが欧州全体ではトルコ系移民が400万人とも言われるだけに、その存在は無視出来ない。

(金子 真夕)